

主な実施状況

✓経営・基金担当理事を新たに雇用（R3.4.1）

⇒民間視点での積極的な意見・提案

基金・経営関連の事項について新たな試みの検討・推進

✓経営戦略基幹を設置（R3.8.1）

○本学の課題・重要事項について中長期的な経営戦略を検討（経営戦略基幹会議を月1～2回開催）

○学内他会議より少数の経営層での活発な意見交換

⇒従来、各担当理事及び各担当部署で個別に検討してきた教育・研究・資産運用等の課題について、**大学全体を俯瞰して中長期的な戦略を議論する体制**を構築

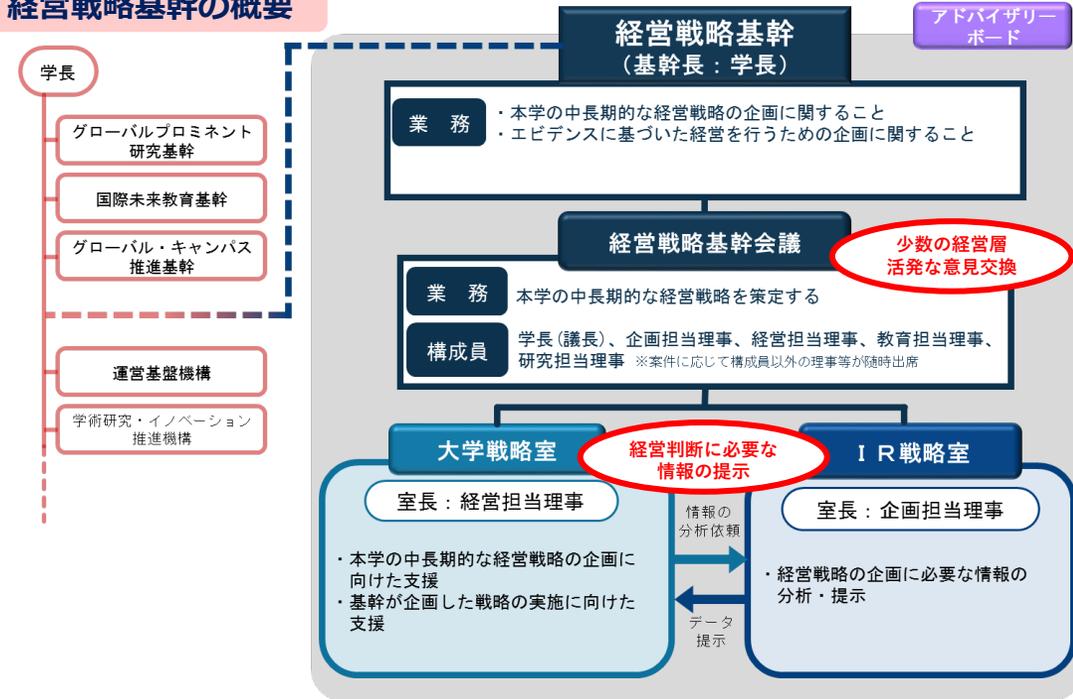
○経営判断に必要な情報（大学戦略室・IR戦略室が連携して用意）を提示したうえで議論

⇒**エビデンスに基づく中長期的な経営戦略策定体制**を構築

<経営戦略基幹会議における主な検討実績>

- ・新たな大学ビジョンの策定 ・大学院の定員規模の在り方
- ・第4期中期目標期間の教員人事計画（採用方針、人件費）
- ・第4期中期目標期間の財務シミュレーション
- ・キャンパスの将来構想（土地の貸付け含む）、施設整備計画、キャンパスマスタープラン

経営戦略基幹の概要



経営戦略基幹の機能

- 大学全体のバランスの取れた**研究力・教育力向上のための経営戦略を策定**
- 自己収入の戦略的獲得方針を策定**
- 大学の**資金や人的・物的リソースの戦略的配分方針を策定**

各担当組織と連携

経営戦略基幹で策定した戦略に基づき

教育・研究・経営等の改革を推進

主な実施状況

✓大学院総合国際学位プログラム設置 (R2.4)

- 専門分野の枠を超えた教育とコースワークを重視したカリキュラム編成による質の高い教育成果

✓遠隔教育実施体制を確立 (R3)

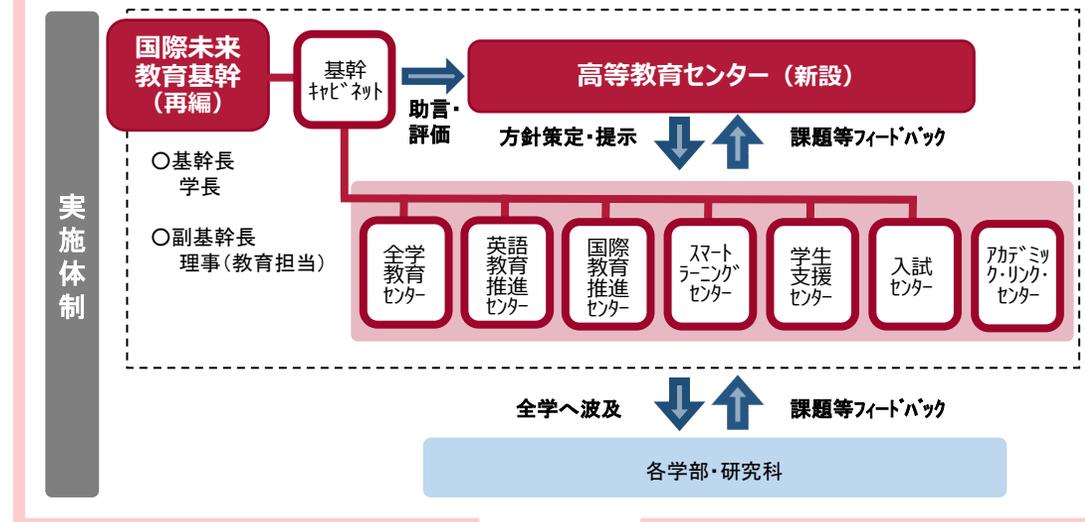
- 遠隔教育基盤整備としてGoogle Workspaceを導入の上メディア授業の実施ガイドを作成
- 今後、リカレント教育等にも更なる活用を図る

✓高等教育センター設置準備委員会設置 (R3.12) (国際未来教育基幹の再編及び高等教育センター設置 (R4.4予定))

- 学長による全学教育のマネジメントを強化、教育改革を統合的に推進
- 高等教育センターは教育改革の方針策定に当たり、最新の高等教育の動向の専門的・多角的な分析や教育IRに基づき検討する中核組織として機能
- データ駆動型の教育改革を推進、情報収集や分析に基づく多様で柔軟な教育プログラム構築に貢献

<例> ・イシューベースの新たな学修の枠組みを構築
 ・マイクロレジデンシャルの導入 (リカレント教育への活用)
 ・文理融合・学際領域のプログラム構築
 ・社会のニーズに対応した新たな学位プログラムの創設へ

国際未来教育基幹の再編と高等教育センター設置の概要



組織整備により今後期待される効果

- 大学の教育改革方針策定と教育IR、FDを一体的に実施
- DXを加速化しデータ解析に基づく教育内容の改善
- 強みを生かした教育プログラム、学位プログラムの創発
- 大学院共通教育をはじめとした大学院教育の充実
- 高大連携、地域連携の取組を通じた社会貢献

真の学修者本位の教育改革を推進

取組 3 研究力強化のための人材育成とベンチャー創出支援

主な実施状況

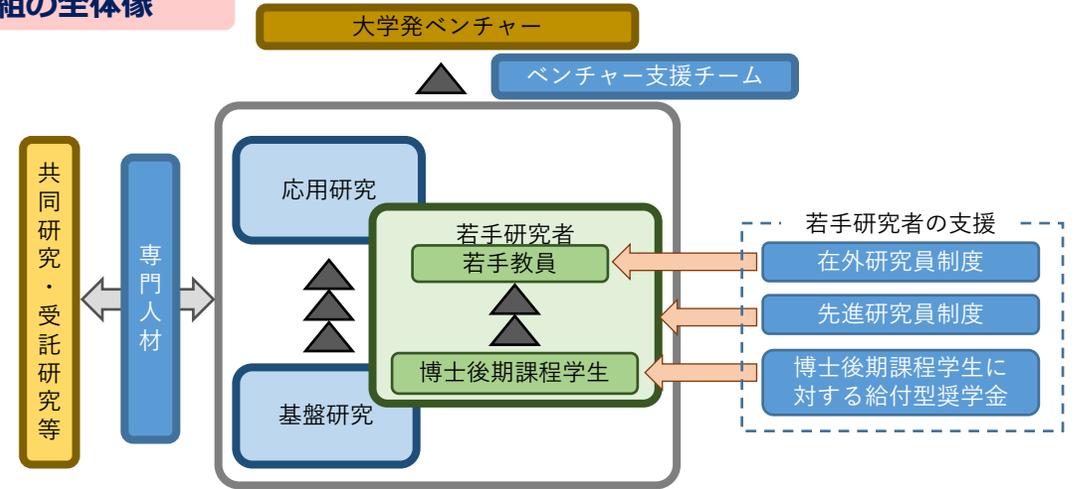
✓若手研究者の支援・育成

- 大学院博士後期課程学生の支援（R3～）
研究奨励費の支給により優秀な人材を確保・育成
博士後期課程進学への動機づけ
- 先進研究員制度（R2～）
若手教員・大学院博士後期課程学生に対して研究費の支給、研究スペースの貸与等により**研究環境を整備**
- 在外研究員制度（R3～）
研究費や派遣元に対する支援の実施により留学を推進し**研究者の国際性を担保**

✓専門人材による支援強化（R2～）

- 専門人材の増員により個人研究の支援を強化
- ベンチャー支援チームを結成し、技術的・資金的アドバイス、法務関係のサポート等をワンストップで実現
⇒**基盤研究から応用研究、イノベーションの創出へ循環させるイノベーション・エコシステムの実現を推進**

取組の全体像



今後の主な展開・期待される効果

R4.4「国際高等研究基幹（仮称）」設置

既存のグローバルプロミネント研究基幹を発展的に改組し、本事業の取組内容も取り込み発展させる。

- 千葉大学を牽引する次世代研究者養成システム構築
- 競争的資金・外部資金の獲得を目指す研究プログラムを学内募集・支援
- 大学院博士課程の育成と総合支援体制構築
- 研究環境（施設・設備・支援者・知財等）の整備



国際頭脳循環の中核として世界最先端の研究を展開